
2025年度 第7期 311ゼミナール 尚綱学院中学校活動報告書



【2025年度 尚綱学院中学校 メンバー】

○院2年生

佐藤駿

○4年生

本間陽菜

○3年生

上野愛莉

○2年生

田村楓菜・千葉雄翔・根本蒼唯

目次

○活動概要	p.3
○尚綱学院中学校概要	p.3
○防災活動について	
①教材作成	p.3
②活動計画とねらい	p.4
【資料】スライド、使用ワークシート等	p.6
○実際の活動	p.8
○総括	
課題と提案	p.9
防災活動の有効性	p.9
○学生の感想	p.10

○活動概要

今回は、尚綱学院中学校にご協力いただき、防災活動を行わせていただいた。活動日当日は尚綱学院中学校で生徒と保護者間の引き渡し訓練が行われていた。そこで、生徒だけでなく保護者の方にも参加していただける活動内容を考え、防災グッズに関する活動を実施した。以下に尚綱学院中学校の概要と活動内容について記す。

○尚綱学院中学校概要

尚綱学院中学校は仙台市地下鉄東西線国際センター駅から徒歩16分の位置にある中学校であり、生徒数は1年生から3年生まで合わせて約80人(2025年6月時点)。

中高一貫教育、キリスト教教育を行っており、系列校として尚綱学院大学がある。

(980-0871 宮城県仙台市青葉区八幡1丁目9-27)



○防災活動について

尚綱学院中学校で防災教室を行うにあたって、どのような活動を行うのかについてメンバーで話し合いを行った。案としては、伝言ゲームを行い必要な情報の取捨選択を行う、避難経路を確認するといった意見が上がった。

今回は、全学年が対象となり、さらに保護者の方にも参加いただけるということで家庭での防災意識を高めるということに焦点を当てた。総合的に考えた結果、防災グッズを使用したビンゴゲームを行うこととした。

①教材作成(準備)

尚綱学院中学校での実施にあたり、災害から自分の身を守るために何が必要かを生徒に検討させる教材を考えた。また、保護者参加の防災活動となったため、自宅での事前準備や家族と一緒に命を守り・繋ぐ行動について考えることができる教材とするように工夫した。以下に使用教材と詳細を記す。

◎ビンゴカード

・事前に保護者と自宅にどのような防災グッズがあるのかや、避難時に必要な防災グッズが必要であるのかを紙に記入してもらう。当日用紙を持参し、ビンゴカードのマス内に防災グッズ名を記入してもらう。

※記入するグッズが自宅になくても構わない。避難時に必要だと考えるグッズを記入させる。全マスを埋めるように声掛けを行う。

- ・時間:10分程度(家族・周囲の人と相談可)
- ・マスに記入後、「防災ビンゴゲーム」を行う。

「防災ビンゴカードゲーム」

○ルール説明

・防災グッズを幾つか紹介する。ビンゴカードに記入した防災グッズが自宅にあれば「○」を付ける。

※注意点:マスに記入していても、自宅にグッズが無い場合は「○」を付けることができない。

・「○」が縦・横・斜めで5つ揃えばビンゴとなる。ビンゴ者には挙手してもらい、景品を贈呈する。

◎防災グッズ紹介

・水・携帯トイレ・毛布・レジャーシート・ペットフードなど(全34個)

→学生は、マスクを埋めることが難しい様子の生徒に対し、状況を説明しながらアドバイスを
行う。

例)停電になったら何が必要？ 感染症のことを考えると？ など

・紹介した防災グッズ以外に、自宅で用意している防災グッズがある場合は、挙手をし
てもらい、ビンゴ対象とする。

・防災グッズ紹介後は自宅での災害への備えについて紹介する。

- ①棚を固定する
- ②寝室に靴を置く。

◎防災手ぬぐい(景品)

②活動計画とねらい

尚綱学院中学校での活動にあたり、参加ゼミ生でゼミ活動時間内に事前に活動内容について
検討した。以下に活動計画を記す。尚、活動内容の詳細については上記の「教材作成」に記載し
ている。

時間	活動内容	ねらい
1 (3分)	・311ゼミナール紹介	・311ゼミナールの活動について知ってもら うとともに、参加者がゼミ生の名前や顔を 確認して交流することができる。
2 (10分)	・ビンゴカード用紙記入 ⇒事前に自宅で用意している防 災グッズを紙に記入してもらう。記 入用紙を参考に、ビンゴカード用 紙に防災グッズを記入する。	・事前に家庭で用意している防災グッズを 書き出すことで、自分や家庭の防災への 備 えを振り返ることができる。
3 (25分)	・防災ビンゴカードゲーム ⇒防災グッズを紹介し、該当品が ある場合には、「○」を付ける。縦・ 横・斜が揃った時にビンゴとなる。	・家庭での備えと照らし合わせ、不足して いる 防災グッズに気付くことができる
4 (15分)	・防災グッズ紹介	・防災グッズの名称や用途を知り、災害時 に必要な備えへの理解を深めることがで きる。
5 (5分)	・まとめ ⇒振り返りを行う。	・防災活動を振り返り、日常的な防災意識 を高めることができる。

尚、作成したスライド等は、活動時間の都合上、使用するワークシートにQRコードを添付し、参加者に読み取らせる形で使用した。

- ・実施日時:2025年6月10(火) 14:00～15:00
- ・場所 :尚綱学院中学校
- ・参加ゼミ生:学校避難訓練班(複数名)・千葉雄翔・根本蒼唯・佐藤駿

【資料】発表スライド、使用ワークシート等
発表スライド

<p>万が一の時に 備える準備は できていますか？</p> <p>防災グッズ</p> <p>必須アイテム</p> <p>集</p> 	<p>飲料水</p> <p>断水したときに、飲み水として命を守るために必要です。 1日一人3リットルを目安に3日分の飲料水を用意しておきましょう。</p> 	<p>携帯トイレ</p> <p>トイレが使えないときに、 衛生的に用を足すために使います。 においを防ぐタイプや凝固剤つきのものが便利です。</p> 	<p>懐中電灯</p> <p>停電時の夜間や暗い場所を照らすために必要です。 → 手回し式やソーラー式は電池がなくても使えます。</p> 
<p>ろうそく</p> <p>懐中電灯がない場合の明かりとして使います。火災には注意！ → ろうそく立てや耐熱皿にのせて、安全に使います。</p> 	<p>マッチ・ライター</p> <p>ろうそくやコンロに火をつけるときに使います。 → 子どもの手が届かないところに保管しましょう。</p> 	<p>非常食</p> <p>お店が閉まっていたり、調理ができないときの食事に使います。 → こはみやパン、缶詰など食べ慣れたものを選びます。</p> 	<p>タオル</p> <p>体を拭いたり、防寒や応急処置にも使えます。 → 乾けばケガの応急処置やマスクの代用にもなります。</p> 
<p>救急グッズ（ばんそうこう・包帯など）</p> <p>ケガをしたときに応急処置ができます。 → 消毒液やビニールシートなども一緒にに入れておきましょう。</p> 	<p>ヘルメット</p> <p>地震のとき、落下物から頭を守るためにかぶります。 → サイズ調整できるタイプと家族全員で使えます。</p> 	<p>マスク</p> <p>ホコリやウイルスから身を守ったり、密閉にもなります。 → 避難所では他の人との距離が近いので、 清潔を保つのに重要です。</p> 	<p>アルコール消毒</p> <p>手洗いができないとき、手を清潔に保つために使います。 → スプレーやジェルなど使いやすいタイプを購入しておきましょう。</p> 
<p>毛布</p> <p>寒さから身を守ったり、床に敷いて寝るときにも使えます。 → コンパクトに折りたためる防災用毛布もあります。</p> 	<p>レジャーシート</p> <p>避難所での床に敷いたり、荷物を置いたりするのに便利です。 → 水をはじく素材のものがあると、地面の冷たさも防げます。</p> 	<p>新聞紙</p> <p>防寒やトイレ代わり、自代わりなど、いろいろな使い道があります。 → 丸めればクッションにもなり、袋の中敷きにも使えます。</p> 	<p>ティッシュ</p> <p>鼻をかんだり、ちょっとした拭き取りなどに使います。</p> 
<p>トイレトーパー</p> <p>トイレ用以外にも、ティッシュ代わりや火をつけるときにも使えます。 → つぶして圧縮すれば、コンパクトに保管できます。</p> 	<p>雨具（カッパ・傘など）</p> <p>雨の中でも避難できるよう、カッパや傘が必要です。 → サイズ別に数枚ずつ分けておくとう運びが楽です。</p> 	<p>モバイルバッテリー</p> <p>スマホの充電ができないときに使え、情報収集や連絡に役立ちます。 → 充電満ちにしてあり、月1回のチェックが大切です。</p> 	<p>ラジオ</p> <p>電気がなくても、情報を受け取るために使えます。 → 手回し式・ソーラー式なら電池が切れても安心です。</p> 
<p>着替え</p> <p>濡れたり汚れたりしたときに、清潔な服に替えられます。 → 特に下着と靴下は多めに準備しておくことが大切です。</p> 	<p>ビニール袋</p> <p>ゴミ袋や簡易トイレ、荷物の防水などいろいろな使えます。 → サイズ別に数枚ずつ分けておくとう運びが楽です。</p> 	<p>ウェットティッシュ</p> <p>手や体を拭いて清潔に保つために使います。 → ノンアルコールタイプもあると小さい子にも使えます。</p> 	<p>常備薬</p> <p>自分の体調を保つために、毎日飲んでいる薬は忘れず、 → お薬手帳のコピーも一緒にに入れておくとう便利です。</p> 
<p>紙コップ・紙皿</p> <p>非常食を食べるときに食器代わりとして使えます。 → 使い捨てなので衛生的に食事ができます。</p> 	<p>割りばし</p> <p>食事のときに使う他、応急処置にも役立ちます。 → 包帯の固定や添え木の代用にもなります。</p> 	<p>軍手</p> <p>ガラス片などを片付けるときに手を守ります。 → すべり止め付きのものも安全で便利です。</p> 	<p>歯ブラシ</p> <p>長期避難では口の中の健康も大事。むし歯予防に。 → 使い捨て歯みがきシートや液体歯みがきもおすすめです。</p> 
<p>生理用品</p> <p>女性にとっては必須。衛生を保つために必要です。</p> 	<p>無洗米</p> <p>水が使えないときでも、そのまま炊けるお米です。 → 少量パックに分けておくとう運びが楽になります。</p> 	<p>ガスコンロ</p> <p>電気が使えないときに火を使って調理ができます。 → ガスボンベも忘れずに数本準備しておきましょう。</p> 	<p>カイロ</p> <p>冬場の避難生活で、体をあたためるのに便利です。 → 足用カイロや貼るタイプも活用しましょう。</p> 

靴

ガラス片や汚れを踏まないよう、避難時は靴が必要です。
→ 脱げにくく、滑りにくい靴を選びましょう。



現金

災害時には電気が使えず、クレジットカードや電子マネーが使えないことがあります。
→ 公共電話や自動販売機、現金しか使えない場所でも対応できるように、千円札や小銭を多めに用意しておくとう安心です。




ペットフード

ペットと一緒に避難する場合の食事を忘れずに。
→ 食器やトイレシートも合わせて準備しておくとう安心です。




ラップ

お皿に盛って使えば洗わずに済み、衛生的に食事ができます。また体に巻けば保温にも。
→ ケガのときに傷口を覆ったり、防水カバーとして使うなど非常にも用途で便利です。



乾電池


懐中電灯やラジオ、モバイルバッテリーなど、電池式の防災グッズを使うために必要です。
→ サイズ（単三・単四など）を確認し、使う機器に合った電池を多めに備えておきましょう。



やっておくといいこと


棚を固定する

地震で倒れてこないように家具を固定しておくとう安全です。
→ 家具の転倒はケガの原因になるので、しっかり対策を。



逃げるときに押戻にならないように近くに靴をおいておく


夜中の地震でもすぐに履いて避難できるようにしておく工夫です。
→ ベッドの下や玄関に靴を置いておく習慣をつけましょう。



ワークシート


尚綱学院中学校のみなさんへ

尚綱学院中学校のみなさん、はじめまして！宮城教育大学311セミナーです。
6月10日の引き渡し訓練後に防災活動を行います。それまでに防災グッズについて、おうちの人と一緒に考えてきてほしいです！下のメモ欄をぜひ使ってください。
この用紙は当日（6月10日）持ってきてください。
当日みなさんに会えることを楽しみにしています！




①家にある防災グッズ


②あった方がい防災グッズ




防災ビンゴカード

名前





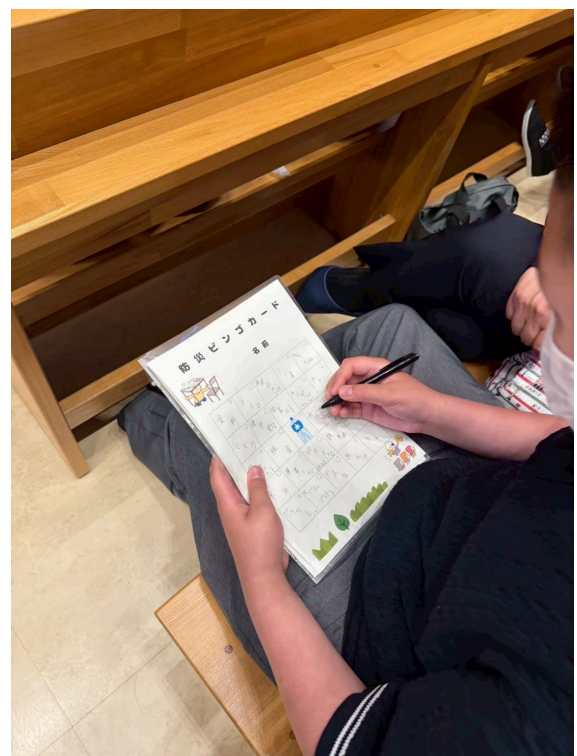
○実際の活動

活動当日は、生徒1～3年生と、1・2年生の保護者の方に参加していただいた。3年生の保護者の方は学外研修のガイダンスに参加されていたため、その場での参加は不可能であったが、事前に家庭で用意している防災グッズについて話し合ってきたらという前提を前に活動を進めた。

最初に防災グッズをビンゴカードの升目に一つずつ書いてもらい、カードの升目すべてを埋めてもらった。その際、保護者の方や周りの友人と話し合っけて升目を埋めようとしている姿が印象的であった。

続いて、スクリーンを使用して防災グッズの名前や使用方法、イラストがかかっているスライドを流しながらビンゴゲームを行った。予想をはるかに超えるくらい多くの生徒がビンゴすることができており、景品の防災手ぬぐいをあつという間に配り終えることができた。ただこの際、書いてある防災グッズを家庭で持っていたら○をつけることができるというルールを設けていたが、このルールがぶれてしまっているように感じる場面が見られた。ここが反省点として挙げられる。

活動全体を通しては、生徒、保護者の方ともに話し合っている姿が多く見られ、家庭での防災意識を高めることはもちろん、家庭内のコミュニケーションを取るきっかけにもなったのではと思われる。



課題と提案

尚綱学院中学校での防災活動を通して、「活動の軸」に関して課題が見つかった。今回の活動では、家庭の防災意識を高めることを目的とし、防災グッズを使用したビンゴゲームを行った。家庭への事前の周知や発表スライド、ビンゴカードのワークシート、当日の配置など様々なところに目を配り、活動案を練っていた。そのため、私たちの活動のねらいを達成しながら、全体的には計画通り進めることができた。しかし、ビンゴゲームのルールという点では、活動の軸がぶれてしまったように感じている。ビンゴカードに防災グッズを記入してもらったうえで、防災グッズを紹介し、その防災グッズが自宅にあれば○を付けることができる。ビンゴカードに記入をしていたとしても、自宅に備えていなかった場合は○を付けることができない。○が縦、横、斜めのいずれかで5つ揃った時点でビンゴとなる。しかし、今回の活動では、ゲームを行ううえでは大切な「ルール」を適宜スライドやワークシート、声掛け等で示していたわけではなかったため、曖昧になってしまった。そのため、予想をはるかに超える生徒がビンゴとなった。また、家庭の中には「災害のために準備しているもの」と「災害のためではないが、家にはあるから使えるもの」がある。後者に関して、○を付けて良いのか迷い、相談してくる親子が多かったように感じている。

事前にはリハーサル等を行い、想定しておき、曖昧さを少しでも減らすことができれば、「活動の軸」が明確になり、より充実した活動になるのではないかと考えた。

防災活動の有効性

防災活動を学校で行うことで、日々防災と向き合う私たち学生が大切だと感じていることを児童生徒や保護者、学校関係者に伝えることができる。そして私たち学生は、児童生徒や保護者、学校関係者から新たな学びを得ることができる。ともに高め合って、未来に起きる災害への備えができるのではないかと考えた。

尚綱学院中学校で防災教室を行うにあたって、どのような活動を行うのか検討するところから活動は始まった。その過程で、必要な情報を取捨選択する伝言ゲームや避難経路を実際に確認する活動といった意見が出た。結果的に私たちは「災害から自分の身を守るために何が必要かを生徒に検討させること」が大切であると考え、保護者参加型であることも視野に入れながら、具体的に案を練っていった。事前に家族で話し合う時間も大切な時間であると考え、家庭への働きかけを行った。そして、当日は防災グッズの紹介やビンゴゲームを通して、災害時に必要な備えの理解が深まるよう設定した。家庭での備えをともに考え、話し合いをする保護者、生徒の姿を見ていても、これらの活動は有効で合ったように思う。ねらいを明確に定めた上で活動を構成することができたからこそ、有意義な防災活動を行うことができたのではないだろうか。そして、私たちも保護者と生徒のやり取りや記入されていた防災グッズから新たな発見を得ることができた。家庭への働きかけの大切さに改めて気付くことができたのも、学校で防災活動を行うことができたからである。

防災活動は、未来の災害に備えるために有効な活動である。活動のねらいを明確にし、軸がぶれないように進めていくことが大切だ。今回は、中学生と保護者が主な対象となる活動であったが、内容や工夫によって様々な年齢層を対象に活動を行うことができる。活動前、活動中だけでなく、活動後の振り返りも大事にしながら、私たち学生だからできる活動、伝えられることを大切に引き続き活動していきたい。

○学生の感想

田村楓菜(2年)

今回は私が学習支援のボランティア活動でお世話になっている尚綱学院中学校の先生方にご協力いただき、防災活動を行わせていただきました。

活動の内容については主に木戸先生とやり取りを行い、生徒の人数や活動場所・時間などを細かく話し合い、短時間でも生徒が楽しんで参加できるような活動を考えました。尚綱学院中学校は生徒数は少ないものの、個人個人への支援を手厚く行っているイメージがあったため、私もなるべく個人個人を見て話しかけるよう留意して活動を行いました。ビンゴカードの升目全てを一人で埋めることは難しそうに見えましたが、保護者の方や周りの友人と話し合っておりなんとかマス全てを埋めようと、積極的に活動に参加してくれている様子が見受けられました。またビンゴした際、生徒達は非常に嬉しそうにしており、防災について学ぶ中でも楽しんで参加できるような活動になっていたのではないかと嬉しく感じました。保護者の方も参加してくださり、家庭での防災意識を高めることのできる活動になっていればと思います。

本活動に際し、多くのご協力をいただきました木戸先生、写真撮影や引き渡し訓練の見学等のご協力をいただきました尚綱学院中学校のみなさまには厚く御礼申し上げます。

千葉雄翔(2年)

この度、尚綱学院中学校の防災活動に当校でボランティア活動を行っている田村さんに誘っていただき、私も参加することができました。これまで小学生と関わる防災活動はあったのですが、中学生と関わる防災活動は初めてのことでした。発達段階に合わせて、中学生には難易度が高めの活動を用意しましたが、良い学びを提供できたのではないかと感じています。

防災グッズについてのビンゴゲームを企画しましたが、私自身も学ぶことが多く、また1つ成長を感じました。私が中学生の頃は防災グッズと言われても多くは思い浮かばなかったと思います。これは教育の内容の変遷であったり、SNSでの情報の広まりがあると考えます。正しい防災を多くの人に伝えたいです。

根本蒼唯(2年)

尚綱学院中学校で実施した防災活動は、学校と家庭が連携して学ぶことの重要性を再確認する機会になった。今回の活動は、災害時に生徒を家族へ返す訓練に合わせて行われたため、家庭での備えを振り返るという明確な目的を持つことができていた。防災ビンゴゲームは、生徒たちが自宅の備蓄を思い出し、足りないものに気づかせる仕組みになっている。実際に活動が始まると、生徒たちは保護者や友人と活発に話し合いながらマス目を埋めており、周囲との対話で知識を深める学習ができていた。私自身も、考えが止まっている生徒に対して「電気が止まったら何が必要か」などと災害時の具体的な状況を示すことで、生徒の思考を促すサポートの方法を実践的に学ぶことができた。

一方で、自宅に物がある場合だけ印をつけるというルールの説明が不十分で、一部で混乱があったことは指示の出し方や説明の点で反省すべき材料だった。しかし、予想以上に多くの生徒がビンゴを達成して景品を手にし、楽しみながら防災への関心を高められたことは、参加型の活動ゆえの学習への食いつきや好奇心の強みだと感じた。尚綱学院中学校は一人ひとりの生徒への支援が手厚い学校だと感じたので、私自身も個別の状況に目を向けて話しかけるよう心が

けることができた。今回の経験から得た、生徒の興味を引き出しながら生活に密着した知識を伝える技術は、将来教壇に立つ際にも直接役立つ重要な教訓となった。

上野愛莉(3年)

本活動では、実際尚綱学院中学校3年生の皆さんと保護者の方々に参加していただき、非常に実践的な活動を行うことができました。

活動中の机間巡視では、各家庭によって防災グッズに対する意識が全く異なることが分かりました。基本的な防災グッズはあると話していたご家庭もあれば、私が想像していなかった物を防災グッズとして用意しているご家庭もありました。どの家庭も、改めて防災グッズについて見直し・考え直す時間になったと思います。防災ビンゴゲームでは、生徒さんが率先して答えていたことが印象的でした。生徒さんの方が防災についての知識も新鮮で、日頃から防災について触れる機会があるのだと気づきました。保護者の方々と生徒さんの間で防災に対する知識を擦り合わせもすることができたと思います。また、多かったケースとして、「家にはあるけど防災グッズとして準備・ストックしている物ではない」ということがありました。物流やライフラインが止まるような大災害が起きてしまった場合、普段の貯蓄だけでは家族全員が生活できなくなる恐れもあります。普段から災害に備えた貯蓄が必要であり、その呼びかけも強化していくことが重要だと考えました。

このような活動はなかなかできないことだと思うので、参加することができて良かったです。

本間陽菜(4年)

尚綱学院中学校さんで防災活動を行わせていただけたこと、大変嬉しく思います。活動の時間は、保護者の方も多くいらっしゃるということで、生徒さんだけではなく、保護者や家庭への働きかけも行うことができました。今回は、家庭での防災に焦点を当て、「防災ビンゴゲーム」を行いました。「家にはないね」「用意しておく必要があるね」等と家庭での取り組みを見直す声が多方面から聞こえ、私たちの活動のねらいである「身近にある災害から自分の身を守るために何が必要かを家庭で考える」きっかけを提供できたように思います。

学校で災害に備えること、児童生徒に防災教育を行うことはもちろん大切ですが、いつどこで起こるかわからない災害に備えるためには、家庭での取り組みも大切であると考えています。教員になる者として、今回の尚綱学院中学校さんでの活動を活かして、家庭への働きかけを考え続けたいと思います。この度は、貴重な経験をありがとうございました。